



第一礼拝次第

説教：渡真利彦文牧師

前奏			
頌栄	540	会衆	
主の祈り		〃	
プレイズ	「心に感謝を持ちながら」 「主は良いお方」	〃	
聖書朗読	ヨハネ4:31-54	司会	
祈禱	(新約聖書p170)		
特別賛美	おちぼの会		
賛美	217	会衆	
説教	「共に喜ぶ」	牧師	
祈禱			
信仰告白			
賛美	新生570	会衆	
献金			
報告		司会	
頌栄	新生672b	会衆	
祝禱		牧師	



第二礼拝次第

説教：渡真利彦文牧師

聖書：ローマ5:3-5	(新約聖書p279)
メッセージ：「希望」	
プレイズ：「鹿のように」	
「いのちの光」「花も」	
讚美：新生76	新生103



ファミリー礼拝

聖書：創世記25:1~11
メッセージ「アブラハムの思いを超えて」

<巻頭言>

「大宣教命令」

牧師 渡真利彦文

先週、中国からの宣教師二人、20代の若い女性が教会のゲストルームに宿泊した。二人は中国の大学で学び、献身して日本人々の救いのために仕えていると話した。確かに韓国でのリバイバルは聞くが、教会への政府からの締め付けも厳しいと聞いている。しかし、彼女らの主への思いと主の働きに感心した。特に大学生への伝道に焦点を絞り、主の弟子化に専念していると聞いた。

使徒の働きの時代、今日のように、マスメディアを持たなかった時代、福音が急速にローマ帝国に伝えられ浸透していった理由は、どのように考えることができるでしょうか。また地中海沿岸の諸地域に雨後のタケノコのように教会が次々と誕生していった要因は、何でしょうか。それは、ただ単に、聖霊に満たされていたかいなかったかの違いではないように思う。それは弟子化するという戦略の問題とも考えられる。

聖書は、すべての教会とクリスチャン、またクリスチャンホームは、その理念としてマタイによる福音書28章19-20節を、いつも心に銘記しておかなければならないと語っている。

『だから、あなたがたは行って、すべての民をわたしの弟子にしなさい。彼らに父と子と聖霊の名によってバプテスマを授け、あなたがたに命じておいたことをすべて守るように教えなさい。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。』(マタイ28:19-20)